

● ブドウ(露地)の病害防除対策について

(べと病、褐斑病、晩腐病、灰色かび病など)



梅雨に入ると、曇りや雨の日が多くなりブドウのべと病、褐斑病、晩腐病、灰色かび病など各種病害の発生に適した条件となります。**気象庁の1か月予報(5月24日発表)によると、「天気は数日の周期で変わりますが、前半は平年に比べ曇りや雨の日が多く、後半は平年と同様に曇りや雨の日が多い」と予想され、発生をやや助長する気象条件と考えられます。**

園内の観察を注意深く行い、参考防除例に基づく防除を励行するとともに、発生を確認したら必要に応じて追加防除を実施してください。

(写真出典：茨城県病害虫防除所)



べと病



褐斑病



晩腐病

防除のポイント

- 1 雨よけ栽培は、べと病、褐斑病、晩腐病、灰色かび病などの発病を抑制します。また、晩腐病に対して傘かけや袋かけは、高い防除効果が認められています。
- 2 発生の早期発見に努め、発病葉や果房等は早急に除去し、園内に放置せず、土中に埋めるなど適切に処分します。
- 3 誘引などの管理作業により、園内の風通しや棚面の明るさを十分に保つように努めてください。
- 4 前年に多発した園では、**令和5年版「露地巨峰病害虫参考防除例」や下記の防除薬剤を参考に、袋かけまでは散布間隔が10日以上空かないように薬剤散布を行います。**
- 5 薬剤散布の次回予定日に降雨が予想されている場合は、散布を延期せずに、降雨前に散布するよう努めてください。また、散布後に連続的な降雨や強い降雨があった場合は、状況に応じて散布間隔を短くすることも大切です。
- 6 薬剤散布量は10aあたり250ℓを目安に、丁寧に散布してください。圃場の周辺部など薬液のかかりにくい場所には、手散布などにより補正散布を行ってください。
- 7 薬剤によっては、幼果期以降の薬剤散布で、果粉溶脱や果実の汚れが生じる恐れがありますので、農薬のラベルに書かれた使用上の注意事項をよく確認してください。また、収穫前日数には十分注意してください。

表1 ブドウべと病、褐斑病、晩腐病、灰色かび病、うどんこ病の主な防除薬剤

(令和5年5月29日現在)

対象病害					薬剤名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	分類
べと病	褐斑病	晩腐病	灰色かび病	うどんこ病				
○					ICボルドー48Q	25~50倍	- / -	M1
	○	○	○	○	オンリーワンフロアブル	2,000倍	収穫前日まで / 3回以内	3
					レーバスフロアブル	2,000~3,000倍	収穫7日前まで / 3回以内	40
			○		パスワード顆粒水和剤	1,000~1,500倍	収穫14日前まで / 2回以内	17
					ランマンフロアブル	1,000~2,000倍	収穫14日前まで / 3回以内	21
	○	○			ホライズンドライフロアブル	2,500~5,000倍	収穫21日前まで / 3回以内	11と27
						2,500倍		
			○		アリエッティC水和剤	400~800倍	収穫30日前まで / 3回以内	P7とM4
		○				800倍		
	○	○	○		オーソサイド水和剤80	800倍	収穫30日前まで / 3回以内	M4
		○	○		スイッチ顆粒水和剤	2,000~3,000倍	収穫30日前まで / 2回以内	9と12
			○	○	フルピカフロアブル	2,000~3,000倍	収穫30日前まで / 2回以内	9
					ベトファイター顆粒水和剤	2,000~3,000倍	収穫30日前まで / 3回以内	27と40
			○		ゲッター水和剤	1,000~1,500倍	収穫45日前まで / 1回	1と10
	○	○			ペンコゼブ水和剤	1,000倍	収穫45日前まで / 2回以内	M3
					ジマンダイセン水和剤			
	○				リドミルゴールドMZ	1,000倍	収穫45日前まで / 2回以内	4とM3

注1) 分類欄には、FRACコードを記載しました(コードが2つは混合剤)。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。